

大会長挨拶

日本放射線影響学会第48回大会を被爆60周年を迎えた広島で開催させて戴くことになりました。同時に、今年度は、アジアの放射線研究者が共に議論できる記念すべき第1回アジア放射線研究会議を合同で開催することになり、本大会に新しいページを書き加えることになりました。この合同開催には、学会長でありJARR会長である大西武雄先生の多大なご尽力を戴きました。

20世紀最大の悲劇に見舞われた広島、長崎の被爆者は、その惨禍を乗り越え21世紀の新たな核時代における「平和の語り部」として新たな輝きを放っています。放射線の人体影響研究の原点とも言える広島で開催される本大会では、20世紀に被爆者から学び体系化した事象を科学の言葉で読み解き「放射線影響の語り部」として21世紀の放射線影響研究を世界に発信することが出来ればと念じています。

放射線の生物影響研究は、ゲノム損傷・修復機構、細胞応答機構、さらには発がんや老化機構といった生物の基本原理を直接的な研究対象とする先端的生命科学の学術であると同時に、益々重要性を増す環境科学の一翼を担う学術であり、まさに21世紀の時を得た学術と言えます。本大会が、この様な時代の要請を受け放射線影響研究の発展に寄与できると同時に、被爆者の健康増進や放射線リスク評価、放射線医療、放射線防護体系の構築、さらには我が国の緊急被ばく医療体制の整備等に貢献できることを願っています。

一方、アジア諸国では、目覚ましい経済発展に伴い原子力の平和利用や放射線を利用した技術が産業や医療に急速に取り入れられています。しかし、放射線の利用に伴う安全ネットとしての放射線影響研究は立ち後れているのが現状です。被爆国として世界の放射線影響研究の牽引役を担う我が国の研究者が、アジア諸国の研究者と共にアジア特有の放射線影響問題を議論し研究の進展に寄与できるのは、我が国ならではの学術的国際貢献といえます。この様な意味を持つ第1回会議が、被爆60周年を迎えた広島で開催できることは、極めて意義深いことだと思います。

皆様方のご参加により実りある学術集会にして戴けますことを心よりお願い申し上げます。

日本放射線影響学会第48回大会
第1回アジア放射線研究会議
大会長 神谷研二